

本年度の重点目標
 ○〔重点目標1〕 心の教育の充実を図る。
 ○〔重点目標2〕 確かな学力の向上を図る。
 ○〔重点目標3〕 心身の健康と安全の確保を図る。

	a : 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b : 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c : 評価	d : 成果及び改善方策
重点目標1	年間指導計画に基づく計画的な指導や心のノートを含む資料の活用と教育活動全体を通じた道徳教育の推進によって、思いやりのある優しい子どもを育成する。	児童評価の平均得点は、前後期変わらず(3.3)、保護者評価において+0.1ポイント(3.4)、教職員自己評価では、+0.5ポイント(3.5)しており、教育活動全体を通して、思いやりのある優しい児童が育っていると言える。しかし、心のノートの活用等道徳の授業づくりでは、教職員評価で前後期変わらず(2.8)、今後さらに年間学習指導計画の見直し他改善を進める必要がある。	B	曾根干潟クリーン作戦やゴミひろうんジャー等の学校全体・学年単独の行事や全ての教育活動を通して、道徳教育を推進できた。また、昨年度末、道徳部会を開き、年間学習指導計画の見直しを図り、新学習指導要領の完全実施に対応させることができた。しかし、教職員評価から、道徳の時間における「心のノート」等の資料の活用が十分なされてはいるという課題も見られた。道徳主任をリーダーとし、道徳部会を定期的に開催する等組織的な取り組みを進めていきたい。
	児童理解や事実関係の把握と指導に努め、家庭・関係機関との連携を通して、好ましい人間関係を育て、いじめのない学級・学年・学校をつくる。【生徒指導】	児童理解と指導では、児童(3.5)・保護者(3.3)とも、前後期変化は見られないが、教職員自己評価でプラス0.2ポイント(3.7)と高い評価で、成果が見られる。また、家庭・関係機関との連携でも、保護者評価は前後期共に3.6と不変だが、高い評価があり、教職員評価で+0.5ポイント(3.7)と高く、取組の成果や教職員の意識の高さが見られる。	A	生徒指導上厳しい実態も低学年の一部では見られたが、組織的に児童理解への熟意と実践をベースとした教育活動が展開された。組織的な生徒指導を推進するための生徒指導部会の定例化(月一回)は、情報交換等に有効だった。今後とも、常に児童理解を前提とした生徒指導を組織的に進め、家庭・地域・関係機関との連携を深めていきたい。学級会活動や代表委員会等の連携を図ること、好ましい人間関係を築いていけるよう努めていきたい。
	児童理解を基に交流教育を推進し、家庭・関係機関との連携で、児童一人一人のニーズに応えた支援を行い、個の力を高める。【特別支援教育】	児童理解で+0.2ポイント(3.4)、交流教育の推進で+0.3ポイント(3.0)、家庭関係機関との連携で、+0.2ポイント(3.2)と取組の成果が徐々に挙がってきていると思われるが、まだまだ児童一人一人のニーズに応えるという点で課題が見られる。	B	これまで、3学期に行っていた特別支援教育研修を2学期に行ったことは、効果的であった。児童理解をベースとし、個のニーズに応じた特別支援教育の推進を図るために、特別支援教育コーディネータを軸とし、個別の特別支援ノートを作成し、継続的な指導に役立てようとした。今後は、個別ノートと併せ、具体的な支援委員会を通じて情報交換を図っていくことが必要である。
重点目標2	学習規律の確立や家庭学習習慣の定着、音読・読書活動の推進を通して、学ぶ意欲の向上を図る。【学び方】	学習規律の確立で、児童評価、教職員評価共に前後期の差は見られない(3.0ポイント前半)、家庭学習習慣の定着についても同様の結果であった。しかし、音読・読書活動の推進で、教職員評価が+0.5ポイント(3.1)と変化が見られたが、児童や保護者の評価にはつながっていない。今後の日常的に、継続的で、粘り強い取り組みが望まれる。	B	家庭学習習慣の定着を図るために、2学期はじめに、低・中・高学年・なかよし学級別家庭学習の手引き「力をつける」を各学年の先生に内容を検討してもらいながら、全校児童にカラー版で印刷配布できたことは、それまで担任によってまちまちであった家庭学習の在り方を学校全体で統一したという点で大きな成果であった。その効果を浸透させるには、時間がかかると思われるが、今後も朝の音読指導の充実や授業改善と併せ、継続的に取り組みを進めていきたい。
	総合的な学習の時間、生活科や、特別活動等学校全体の取組を充実させ、省資源・省エネルギーの実践活動に努め、環境保護や環境保全に対する実践的な態度を育てる。【環境教育】	総合的な学習の時間、生活科の充実や特別活動の充実等は、学校主題として環境教育教育を進める上でも特色ある活動であり、保護者評価、教職員評価ともに高い。さらに、省資源・省エネ領域の実践(エコ校舎の活用)で保護者評価は変わっていない(3.0)が、教職員評価は+0.4ポイント(3.2)と2学期の取り組みが高く評価されている。	A	自然領域を基盤とした省資源・省エネルギー領域の学習、とりわけ課題であったエコ校舎の活用を図る取り組みが4・5・6年で進められたことは、今年度の大きな成果であった。今後も本校の環境教育カリキュラムの実践・検証・見直しを継続的に進めていきたい。
	CRT等の結果を活用し、少人数指導を生かす等、授業の工夫改善を行い、一時間一時間めあてをもった学習を行い、分ける授業を行う。【教科指導】	CRT等の結果の活用では、保護者評価・教職員評価共に前後期ポイントの変化は見られない。少人数指導は、教職員が+0.4ポイント(3.2)、めあてを明確にした学習で児童がプラス0.1ポイント(3.4)、教職員が+0.3ポイント(3.3)と高く、成果が見られる。	B	CRT検査(1~5年)や全国学力学習状況調査(6年)の結果を詳細に分析し、少人数指導の重点化を図り、基礎基本の充実に努めた。授業改善は教育活動の基盤となるものである。今後も主題研修や若年研修等の授業研修を通して、学習規律も高め、総合的な学習の時間や教科学習の充実にも努
重点目標3	あいさつや身のまわりの整理整頓、ていねいな言葉づかい等の指導を通して、良好な人間関係づくりの基本であるあいさつができる子どもを育成する。【礼儀】	あいさつ・整理整頓・言葉遣い指導で、児童・保護者とも前後期の変化は見られないが、教職員評価で+0.2ポイント(3.3)と+0.2ポイント(3.0)、+0.3ポイント(3.0)と取り組みの強化が表れている。しかし、成果にはつながっていない。	B	家庭・地域との連携の中で、あいさつ指導等進めてきたが、低学年を中心に課題は残っている。言葉遣いや整理整頓等の指導も継続的に続けているが、成果は挙がっていない。今後も粘り強く指導を続ける必要がある。
	安全指導の徹底や保護者・地域との連携、安全点検の充実等を通して、安全・安心な学校をつくる。【安全・安心】	安全指導で、保護者は前後期変わらないがポイントとしては高く(3.5)、教職員は+0.4ポイント(3.6)と高く、指導の強化が表れている。連携で保護者は+0.1ポイント(3.6)教職員は+0.4ポイント(3.5)と高く、上記の生徒指導とも重なっている。また、地域からも情報発信の点で(3.5)と高く評価されている。	A	安全・安心については、特に2学期後半に安心メール配信を開始したことが地域・保護者に高く評価された。今後も日常的な安全指導はもちろんであるが、早く正確に情報発信する中でPTA・保護者・地域の「ふれあいネットワーク」や見守り隊・曾根東市民センター・放課後児童クラブと共に、危機感をもった安全指導を進めていきたい。さらに、地域の見守り隊や保護者によるスクールヘルパー等、児童の安全を見守って下さる方々を終業式で紹介し、具体的に意識づけの指導を実施してきた。
	体育・保健の授業の充実や健康な体作り、外遊びの推進等を通して、健康な体づくりに努める。【健康】	体育・保健の授業の充実で、教職員で+0.3ポイント(3.1)と取り組みの強化が表れており、健康な体づくりで、児童は変わらない(3.2)が、教職員で+0.3ポイント(3.3)、外遊びの推進で、児童が+0.1ポイント(3.5)、保護者は-0.1ポイント(3.2)、教職員で+0.3ポイント(3.4)と健康な体づくりの取り組みの評価は概ね高い。	A	学年によって朝のトレーニングを年間通して続けたり、全校挙げて取り組んだ1月末のマラソン大会に向けた朝休みのマラソントイムの実施、学校行事や環境教育で曾根干潟への徒歩移動等、様々な機会を通して、健康な体作りにも努め、成果を上げている。今後は、体育科の授業改善の中で児童が楽しく、しなやかに健康な体作りにも努めよう努めたい。

学校関係者評価委員会から
 ○ 多忙な学校行事の中、家庭学習の手引きをはじめとして、児童の学力向上と家庭学習の充実のために学校挙げて、努力されていることに敬意を表すると共に、教育成果が挙がることを期待します。学校運営にとって地域の協力は不可欠と考えるので、今後とも、地域への情報発信は迅速にお願いしたい。

学校より(本年度の学校評価の実施について振り返る)
 ○ 今年度は、校長・教頭・教務と低中高1名ずつによる学校評価検討委員会を実施し、組織的に学校評価を進めてきた。これは、学校評価に対する全教職員の共通理解を深めたという点で成果であった。また、前・後期の年間2回(7月・12月)の実施によって多様な視点で比較検討し、振り返ることが出来た。しかし、今後、より確かな学校評価にするためには、評価項目や評価規準、アンケート項目等の見直しが必要である。今後、さらに組織的な学校評価を進めていきたい。

※評価 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった